

防災世界子ども会議 2006 in 台湾 新聞掲載記事

1. 神戸=台湾 ネットで中継
高校生ら防災熱弁 各国の災害体験伝える
神戸新聞 2005年1月8日
2. 台湾・防災世界子ども会議 テレビ会議参加
葺合校生が安全地図発表
讀賣新聞 2005年1月8日
3. 葺合校生ら震災教訓訴え
防災世界子ども会議 台湾と日本を結び交流
毎日新聞 2005年1月8日
4. トバゴから”防災大使” 「情報交換の大切さ感じた」
県災害対策本部訪れ報告
讀賣新聞 2005年1月13日
5. 防災世界子ども会議
トリダードトバゴ代表、県へ報告「情報交換の大切さ知った」
神戸新聞 2005年1月13日
6. 子どもたちの意見を減災に役立てよう
「トリダードトバゴ防災子ども大使―防災監を表敬」
防災子ども大使のファーガソン君が井戸知事へのメッセージを防災監に手渡した
兵庫ジャーナル 県政ニュースサイト 2005年1月16日

神戸◆台湾 ネットで中継

高校生ら防災熱弁

災害の伝
害を
各
国
体
験

神戸と台湾をインターネット中継で結び、世界の子どもたちが防災について語り合う「防災世界子ども会議2006 in 台湾」が七日、開かれた。神戸市中央区脇浜海岸通、JICA兵庫の神戸会場には高校生ら約百人が出席し、阪神・淡路大震災の教訓を発信した。

中、高校生約六十人が集まり、初めて開催。今回は台湾高雄市をメイン会場とし、神戸会場とインターネットでつないだ。

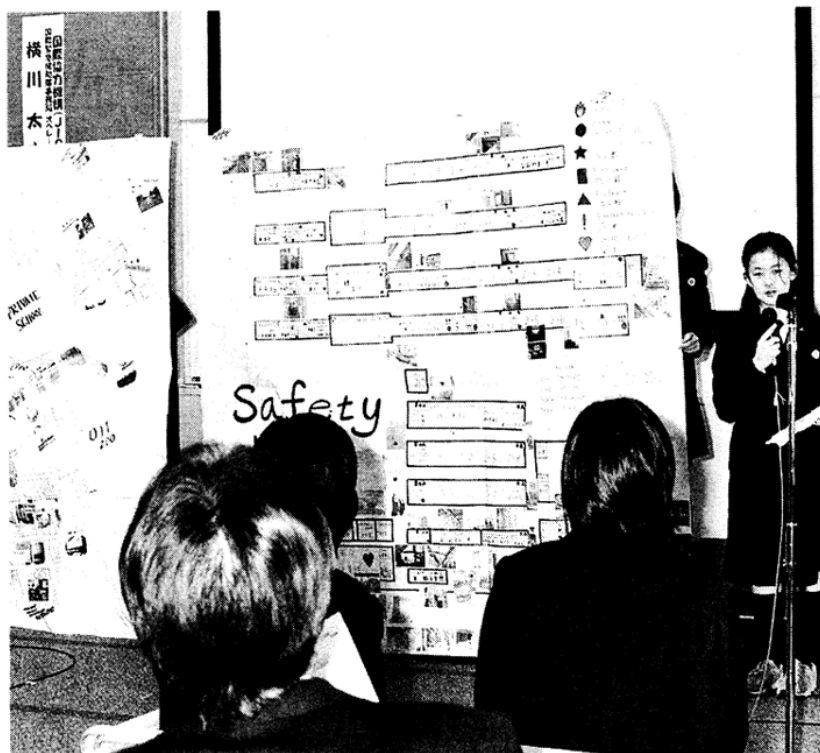
台湾会場にはマレーシア、韓国、イランなどから出席したほか、日本からも県立舞子高校の生徒ら約二十人が加わった。一同会議プロジェクト実行委員会主催。昨年、神戸、淡路に十二カ国の小

方、神戸会場は市立舞合高校、県立淡路高校の生徒らが集まった。

それぞれの会場の模様は大型スクリーンに映し出され、すべて英語で行。自国が受けた自然災害の体験や教訓を報告し合った。神戸会場は舞合高校が阪神・淡路大震災の状況を説明した上で、自分たちでつくった防災マップを紹介。「日常からの近所の助け合いが災害時に役立つ」と台湾会場に語りかけた。

途中、音声が途切れるハプニングもあったが、神戸会場で司会を務めた舞合高三年の足立真希さん(二八)、中口瑛美さん(二八)は「情報技術が進化し、世界が一つになれるようになった。こうした技術を利用し、各国が受けた災害の教訓を語り合うことは防災にとっても役立つ」と話していた。

(中部 剛)



安全マップづくりについて報告する葦合高生

台湾・防災世界子ども会議

葦合高生が安全地図発表

テレビ参加

国内外の中高生が災害対策や韓国など10の国・地域が策などについて考える「防災世界子ども会議2006」に参加。JICA兵庫では、の生徒13人が、同校から半

in台湾」が7日、台湾・径500mの地域にある危高雄市で開かれ、テレビで険か所を選び出し、写真な結ばれた神戸市中央区のJどで示した安全マップ(2ICA兵庫でも同市内の高以四方)を作成した経緯な校生らがモニター画面を通じて説明した。同校2年石原睦子さん(17)は「マップを作る過程で、学校にもさびて使えない消火器があることもわかった。防災対策も国によって様々で、これからもほかの国の子もたちと情報交換を続けていきたい」と話していた。

同会議実行委員会の主催。阪神大震災から10年を機に開かれ、昨年1月の第1回会議では県内各地でフォーラムなどが行われた。今回が2回目で、イラン

葺合高生ら震災教訓訴え

防災世界
子ども会議

台湾と日本結び交流

イラン、マレーシア、台湾など日本を含む世界六つの国・地域の子どもたちが集い、防災について

考える「防災世界子ども会議2006 in 台湾」のテレビ会議が7日、台湾の会場と神戸市中央

区のJICA兵庫を結んで開かれた。日本側からは葺合高校や淡路高校の生徒ら約100人が参加した。

葺合高校の生徒らは、台風や噴火など自然災害についての調査結果や同校付近の防災マップを発表。安全な場所を把握することの重要性や近所づきあいの大切さなどを訴

えた。また、被災地・神戸から生まれた歌「しあわせ運べるように」を歌った。
マレーシアの子どもたちは昨年のスマトラ沖大地震での被害の様子について発表。台湾の子どもたちは地震に関するクイズ大会を行った。「日本政府はどんな津波対策をしていますか」などの質疑応答も行われた。

テレビ会議で台湾に向けて情報発信する葺合高校の生徒ら 二神戸市中央区のJICA兵庫で



トバゴから「防災大使」

「情報交換の大切さ感じた」

県災害対策本部訪れ報告

台湾の高雄市で開催された「防災世界子ども会議2006 in 台湾」に参加した中南米トリニダード・トバゴのアブラハム・ファーガソン君(15)が12日、神戸

市中央区の県災害対策本部 監と、災害時の情報交換の室を訪れ、東田雅俊・防災 大切さなどについて意見を



東田防災監(右)と握手を交わすファーガソン君

6日から8日まで開かれた会議には、世界の中高生約400人が参加し、同会議実行委員会から「防災子ども大使」に任命されているファーガソン君は、神戸市内の高校生とのテレビ会議などを通じて「情報交換の大切さを感じた」と報告。国連や各国の災害対策本部などにリンクし、災害について学習できるホームページを運営していることも紹介した。

東田防災監は「阪神大震災での経験と教訓をホームページで紹介していただけ、世界の自然災害の被害軽減に役立ててほしい」と話し、握手を交わした。



世界
社会
災も
防子

トリニダード・トバゴ代表、県へ報告

「情報交換の大切さ知った」

台湾で開かれた「防災
世界子ども会議」に参加
したトリニダード・トバ
ゴ代表のアブラハム・フ
アーガソン君(巴が十二
日、県災害対策センター

(神戸市中央区)を訪問
者代表として、東田雅
俊防災監を訪問。トリニ
ダード・トバゴはカリブ
海の島国でハリケーンな
どの被害があるといい、
「多くの国の人たちが日
ごろから防災について情
報交換する大切さを知っ
た」と話していた。

子ども会議は一月六
八日に台湾・高雄市で開
催。七カ国約三百人が参
加し、国際的な防災協力
の重要性を確認した。
フアーガソン君は参加



防災子ども大使のファーガソン君が井戸知事へのメッセージを防災監に手渡した

トリニダードトバコ防災子ども大使 防災監を表敬

子どもの意見を減災に役立てよう

7日、台湾で開かれた「第2回防災世界子ども会議」に中米・カリブ海のトリニダードトバコ代表「防災子ども大使」として参加したアブラハム・ファーガソン君（14歳）が12日午後、県災害対策センターに

東田雅俊・県防災監を表敬訪問した。

ファーガソン君は、「子どもの意見を聞き、災害被害の減少に取り組もう」とした同国環境大臣から井戸知事へのメッセージを東田防災監に手渡し、「防災世

界子ども会議で情報交換の大切さに気付きました」と参加した感想を話した。

また、楽しく災害について学べるホームページを公開していることを報告、東田防災監は「兵庫県では、大震災の教訓を世界に発信している。ホームページで紹介してもらいたい」と求め、今後の活躍に期待した。